

# とびっきりの新法

はぐるま

「障害者自立支援法」廃案  
になると決まってから

新法は

「世界に自慢できる制度」

をつくろうと、当事者  
家族・関係団体代表で  
構成した「総合福祉部会」  
で協議を重ねてきました。  
「自慢できる制度」とは  
みんなが人として大切に  
される社会を目指した  
ものであり、特別な事を  
提案したものではありません。  
自立支援法下では  
型にはめたサービスの

あり方や障害を自己責任とした考えを、

排除し、障害のある人が自立できるしくみ  
を法に定め、国が責任を果たす事を求めて  
います。

しかし「障害者自立支援法」の一部改正に  
留った今回の「障害者総合支援法」に  
対し、仲間達（職員も）は「きょうされん」  
の仲間達と『私たちが考えたしくみを実現  
して下さい』をスローガンに、署名活動に  
取り組みました。



## 仲間自治会報告

No.68号  
2012年6月8日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会  
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

自治会の活動は多岐に及びます  
6・7・8月は特に行事が多い  
のですが、仲間達が生き生きと  
活動する時期でもあります。

これから取り組む活動は

- 一年間のまとめ会（評価式）
- 登山実行委員会
- 物品活動

地域の皆様にも、ご協力を  
お願いすることがありますが、  
よろしくお願いいたします。

この度は 仲間自治会代表が  
宮城県石巻十三浜の青山さんを  
訪ねて参りましたので  
報告をします。

## 皆さんの 十三浜への想いを お届けしてきました！

瓦礫の撤去作業が続く十三浜で青山さんとお会いした1年前の平成23年5月29日、【青山さん応援募金とお手紙】をお届けに伺った仲間たちに「来年ぐらいから、またわかめができるかもしれない。もしできたら1番に送りますね」と声をかけてもらいました。

※その言葉通り先日、初獲りわかめがはぐるまに届きました。

そして…

1年後の平成24年6月1日(金)に

「応援募金(第1弾)」後も、今なお地域の皆様から届く募金や励ましのお手紙と共にはぐるま仲間自治会代表の4名と職員2名で【青山さん応援募金(第2弾)】31万4百2円をお届けしてきました。

今回のはぐるま仲間たちは、被災地を初めて経験する人たちです。

早朝5時に川崎を出発し、片道7時間の長い道のりを往復するハードなスケジュールでしたが、見事に大役を果たしてくれた仲間たちをあらためて誇りに思います。



皆様からのお預かりした募金を  
無事、青山さんにお届けできました

十三浜大指の地で青山さんご夫妻へのご挨拶は、2時間程の滞在しかできませんでしたが、仲間たちは「青山さんにお会いできたら聞きたかったこと」を、『これも聞きたいな』『あれも聞きたいな』と事前に学習をしていました。

## 仲間たちと青山さんの交流のようす

橘さん

「地震があったけど、皆さんかわらずお元氣ですか？」

青山さん

『みんな元気にしています』

佐々木さん

「僕は昆布が大好きです。おでんの昆布が大好きです」

青山さん

『そうですか。本当にありがとうございます』(とても喜んでくださっていました)

塚原さん

「初獲りわかめを地域の皆さんに配ったら、本当に喜んでくれました」

青山さん

『本当は私共がお客様に報告しないと行けないのに、はぐるまさんが廻ってくださり、ありがとうございました』

## はぐるま仲間自治会 より

### 《青山さんの戸所に行った報告》

2012年6月1日(金)、宮城県石巻市の青山商店  
に行つて来ました。

行ったメンバーは、塚原、佐々木、長原、橋と、職員2人です。  
途中 ガードレールがまがっていたり、車がつみかさなっていたり、  
川に木がたくさんおれていたりしました。

一番かわいそうだったのは、学校のかべが全て無くなっていて、

バスケットのゴールが、クニャーと、まがっていました。まるで、立体駐車場  
みたいでした。

青山さんの所は、ますこさんたちやおいちゃんたちと一緒に住めるように  
新しい家を建設していました。その横に、仮の作業場のアレハフが並んでました。  
そのアレハフでねたり、1時間かけて、御風呂に入りに行ってるそうです。

本当にたいへんだなと思いました。

皆様から預かっていた募金のお金と、手紙をわたしました。

はいめは、仕事をもう止めようかと言ったけどまだ仕事を続けるようになって、  
良かったな、と思いました。

またはぐるまにわかめを送ってくれるものなのでたくさん売れ皆様に、  
たくさん食べてもらいたいです。



青山商店さん特製刺しゅう入り  
エプロンもお届けしてきました

長原さん

「またはぐるままで、わかめを販売してもよ  
ろしいでしょうか？」

青山さん

『なんとか、はぐるまさんに送れるように  
頑張ります』

震災直後は、青山さんたちとこのような時  
を迎えられるのは、もっと遠く将来のこと  
と考えていました。

青山さんからは、

「何とか商売を再開する為の目途はたったが、家までとはとても…と考えていたが、成人している息子と娘が離れ離れになってしまっている家族全員がまた一緒に暮らすための家を建ててくれることになった」  
「特に十三浜を離れたことの無い祖父母は故郷に戻れることを本当に楽しみにしている…」とお聴きし、感激!! 本当に素晴らしいご家族です。



青山さんご夫妻と



現在、建設中のご新居 (8月完成予定)

また、十三浜と繋げて下さったNPO法人「水守の郷・七ヶ宿」の海藤さんと相川地区でたいへんお世話になっている役員の方々にも、ご挨拶ができました。相川地区の皆さんからは、初獲りわかめや昆布、ホタテ貝、菜園の野菜などどれも震災後に獲れた貴重な品を毎回、仲間たちに送っていただいています。



震災後たくさんの方たちとのつながりができました。20数年前最初の出会いは青山喜八郎さんご一家  
10数年前、はぐるまの仲間が会いに行った、青山喜一さんご一家・そしてこれからはお子さんたちの代と、ずっとつながっていければいいと思います。私たちはわかめ・こんぶのファンのお得意さんと共に「食する」ことで応援していきます。



十三浜相川の皆さん!!  
ありがとうございます  
これからもよろしく願います。